



**CSA 2011年ワーキング・スタディ・ツアー  
参加者アンケート**

# CSA 2011年ワーキング・スタディー・ツアー参加者アンケート

## 二 戸 智 子 (UIゼンセン同盟 サイボー労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

中古衣類だけでなく、冬物の必要性、又タオルの必要性、衣類の仕分けの大変さ等を、自分の目で見て、肌で感じ、現場で働く人の声が聞くことが出来たこと。(実感するということは、人に伝える大きな力になると思います。)

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

あることが当たり前なのではなく、支援してもらっているからこそ、今の自分達があるという感謝の気持ちを常に持っていること。そして、素直に人を受け入れ正直に応える気持ち。大人であっても子供であっても、人としての優しさや素朴さが伝わってくる。子供たちのシャイな表情が可愛くて写真を随分撮りました。

#### 3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

各省庁訪問挨拶時に、学校建設や衣料支援等で感謝され、今後も継続支援を要望され期待されていることを強く感じた。また一歩進んだ教育の人材育成の必要性、図書館、音楽(楽器等)の必要性も話され今後の活動への期待をも感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

5泊7日の旅でしたが、中味の充実した無駄のない日程だったと思うし、また各省庁での質問時間も妥当だったと思う。小学校2校、サンティパーブ高校寮、倉庫視察等においても、現地の人々と触れ合いお話を聞くことができたことは、今後の支援活動に役立つ良い機会だった。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい。

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

現地をよく理解し、地道に堅実に支援している事がよくわかった。また、各省庁、各学校の支援活動へのニーズにもよく耳をかたむけ、少しでもそのニーズにこたえたいとしている姿勢を感じた。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

現地の活動を継続しながら、やはり、本の支援(子供の育成に大切なことだと思う)等も各協力団体と助け合いながら、形にできたらいいと思う。またサンティパーブ高校寮卒業生の留学へのニーズにもケアが必要ではないか? と思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

参加者が単組において報告するのはもちろんだが、関連団体や他組織にも機会のあるごとに地道にアピールし、一単組からでも支援の裾野を広げていくことが大切だと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

自分の目で見て、肌で感じて、声を聞く実感が1番ストレートに気持ちに届く。自分自身にも、又組合での今後の活動への積極性にもかかわってくる。ぜひ、多くの方に参加して頂き、この実感を体験してほしい。伝えてほしい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

正直、5泊7日の中で組織を意識することはほとんどなかった。CSAという1つの仲間という意識だった。

3) チームの運営の仕方はいかがですか。

役割分担したことで、各自が代表の意識を持って活動でき非常に良かったと思う。その他に、事前に、お互いに楽しめる参加型の交流の打ち合わせがあれば良かったかなと思う。

**樋川昌己 (UIゼンセン同盟 テルモ労働組合)**

1. 参加して感じたことは何ですか。

1) 良かったこと

自分たちの中古衣類をおくる活動が、タイ・ラオスの人たちの生活を支えている様子をうかがい知ることが出来たこと。また、支援を受けている人たちが、決して支援に頼り切る生活をするのではなく、まずは自分たちで何とかしようという気概を持った上で支援を受けている様子に安心しました。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

ラオスの小学生や高校生の屈託の無い笑顔と、現地の大学に通う生徒さんの真剣な眼差しに心を打たれました。

3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

現地で困っている人たちの生活を支える為に重要な役割を担っていることを評価している様子が見て取れました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

とてもよかったですと思います。スケジュールもタイトでは無く、現地の状況を現地の人はもちろん、日本国大使館に勤める方の第三者の視点からも知り得ることが出来たのは収穫でした。返しになります。現地の人から大変感謝をされており、有意義な活動ができていると感じました。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい。

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

現地の人たちの生活を支える一方で、その人たちの自立の意識を損ねることの無いように上手くバランスを取って活動されていると感じました。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

現在の活動を維持すること。取り分け、学校建設支援の活動をより充実させることが良いのではないかと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

今回のワーキング・スタディー・ツアーへの参加者を今まで参加したことのない労働組合から募ること。そして、参加者には、CSAの活動の趣旨を自組織に伝えて広げるメッセンジャーとしての役割を担って貰うことが必要だと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

是非、続けた方が良くと思います。それも参加したことのない労働組合から参加者を募る形で多くの組織に広めて欲しいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

今回の活動に限らず、他労組の諸々の活動事例に触れて見識を深め、多くの人とも面識を持つことが出来たのはとても収穫だったと思います。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

とてもよかったですと思います。ツアー中、役割を当番制にすることで緊張感も生まれ、ただ参加するだけといったこと無く多くのことを学び得たと思います。

## 野村 勇 (UIゼンセン同盟・島根中井工業労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- 中古衣料を倉庫等で確認出来た事は、とても良かったと思います。
- このツアーに参加しなければ、まず行く事も無かったであろうラオス。しかも地道を2時間も走り続けて、たどり着いた北部の山間集落。大変、貴重な体験となりました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

- 40年～50年前の日本の田舎の風景がそこにありました。使い古された木の机と椅子。  
屋根や壁と言うには、ほど遠い校舎の作り。でも子供たちの目は現代日本の青少年とは比べものにならないくらい輝いていました。ラオス国の明るい未来を確信しました。
- ラオスでは舗装道路に側溝が無いので、道の両端が赤土だらけで、車が通る度に土埃が舞い上がっていた。

#### 3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

訪問する先々での歓迎を受け、CSAが認知されていることを実感しました。「下から目線」で、これからも活動して行けば評価は自ずと付いてくると思います。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

5泊7日という行程は丁度良かったと思います。小学校訪問も良かったが、山間部の病院や老人ホームを訪問してみたかったです。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

政府等の援助なしに活動している事に敬意を表すると共に、そこに関わっている事に自信と誇りを持ちたいと感じました。  
数少ない正統派の支援団体ではないでしょうか。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

ラオスでの識字率の向上は切実です。子供たちが、もっと多くの活字に触れる機会を得る為にも、図書支援は(ラオス語)は必要不可欠だと感じました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

支援には金が必要です。今回、倉庫や、そこから山間部へ届ける労力を目のあたりにして、その事を痛感しました。もっとDVDやパンフレット等で、その辺の事業を教宣していったら参加や協働も増えるのではないのでしょうか。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

- ・続けるべき(支援を必要としている所がある限り)
- ・続けて行く為には、どうするかが重要。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

得るところだらけでした。  
私以外は大組織の代表の方々に、普段の組合活動のレベルの高さに感動ものでした。  
こんな機会を与えて頂き感謝しています。  
地元に戻って、これからは役に立ちたいと思います。英会話は大切ですね。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

役割分担をきちんと決めて、しかも日替わりで担当が替わるので緊張もしましたが、また、そこが楽しくもありました。各団長さんのあいさつは、とても良かったです。

**鈴木直樹(基幹労連 三菱重工労組)**

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

CSAの活動内容を理解出来たこと。また我々の組合でも取り組み、活動を支えている救援衣類を送る運動や教育支援事業を目の当たりにし、組織活動としてここまで行っていることについて改めて感激を覚えたこと。

2) 訪問先で特に印象を受けたことは何ですか

ラオスは貧しい中にも生命力や活気があるように感じました。タイとラオスでは救援衣類についてもタイの方がより進んだ取り組みがされており、国力の違いを実感し、印象的でした。

3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

他国のNGOの支援について現地の方々には本当に感謝し、継続することを望んでいると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

視察したい箇所を絞っていたので、適切なスケジュールであったと思います。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

教育支援を通じ日本とタイ・ラオスの橋渡し役になっていると思います。CSAの活動に関わっていること自体、広い視野が得られると思います。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

地道な活動を継続することは勿論、人材交流等を通じ、国内での認知向上や活性化に努めるべきと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だとおもいますか。

現地視察の機会があれば手っ取り早いのですが、どのようにすれば、行けない方たちにも理解や協力を得られるようにするか工夫が必要と思われる。

- これからのタイ・ラオスとの文化交流の重要性を上手く説明すること。文化交流におけるメリット・デメリットを多角的な視点で整理し、日本の皆さんに上手く説明することで、タイ・ラオスの方々との相互理解や交流のモチベーションが得られるのではないのでしょうか。逆に二国間の状況を比較するだけでも、国内の諸問題に対する見方は変わってくると思います。もともと日本は西洋を規範としてきた経緯も含めて。
- 帰国後の活動も視野に入れた視察を展開するとより協働型になるのではないのでしょうか。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

続けることに意義はあると思います。当労組におきましても、毎回中執が参加しておりますが、たまには支部の執行委員が参加されても有意義なものになると個人的には考えております。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

他の産別・労組の方々との共同作業は楽しいものでした。意見交換も出来ましたし、自分を見つめ直す機会にもなりました。

3) チームの運営の仕方はいかがですか。

団長を持ち回りで担当する運営スタイルは良かったと思います。しかしながら、訪問先でそれぞれ視察や対話のポイントがあるのでしたら、予めその内容を担当に伝えておいて貰った方がより自然な感じで入れるのではと思いました。

## 生 井 光 男（基幹労連 IHI 労連 横浜支部）

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

ラオスやタイの倉庫で実際に私の支部から送った救援衣類を確認でき、また救援衣類の贈呈が出来たことに対し、確実に支援が役に立っていることを実感できました

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

小学校の訪問で子供達の無邪気な笑い声を上げている姿を見て心が洗われる思いがしました。また、トンパンビライ村小学校訪問の際、隣村の学校で救援衣料の贈呈と村の皆さんに歓迎され、予定外のことだったので戸惑いましたが感動しました。

#### 3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

訪問先で、学校建設や救援衣類の支援に対して高い評価を得ており、CSAの活動が行き届いていると感じました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

5泊7日の日程で行われましたが、もう1～2日伸ばしても良いかと思いません。  
今回は日程が前回よりも短いため小学校で子供達との交流時間が少なかったことと、タイで北部の視察が出来なかったのが残念です。

### 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

各省庁だけではなく村の皆さんにもCSAの支援活動が浸透していることを感じました。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

学校もまだ不足の状況ではありますが、図書館・図書室（SVAでも移動図書館などで支援してますが）にも今後、力を入れていかなければならないと感じます。  
また、医療関係も支援活動が必要だと感じました。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

参加者が組合員に対し、実際に体験したことを報告することが大事だと考えます。



### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がいいですか。

自分の目で確かめた方が今後の活動に役に立ちますので是非継続してください。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

組織間の情報交換が少なかったのは残念に思いますが、組織を超えた交流が出来たことは今後の活動に活かしていけると思います。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがですか

役割分担が日替わりで行っていたので程よい緊張感があり良かったと思います。

## 石橋俊彦（基幹労連 JFEスチール本社労働組合）

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

基幹労連「ふれ愛カンパ」の使途であるCSAの活動状況を自身で確認できた。カンパ協力を説明し依頼するに際し、経験に基づいて話ができることは自分自身大変ありがたいし、企連をはじめ機会を捉えて積極的に話をしていきたい。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

特にラオスで感じたのは、政府高官から一般の農村の人々までCSAの支援に対して心から感謝している、ということ。そして、感謝はしているけれども決して卑屈ではない、自分たちの毎日の生活のあり方、地域社会を大切にしている、という印象を受けた。

#### 3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

ラオスについては、他の支援団体に対しても同様の姿勢を示しているのかもしれないが、素直に支援を受け入れ、心から感謝している、と感じた。子どもや子どもを教える教員を育てる環境づくりに重点を置いているラオス政府の考え方と合致しており、またODA等を行なう日本政府の姿勢とも整合していることから、高い評価につながっていると感じた。タイについては、感謝されているが、ラオスほどではないと感じた。それは国として経済力がついてきており、ある程度自力で解決を図ることもできるという自信と感じた。一方で、支援が必要な農村部もまだあることも事実であり、これまでの経緯も踏まえて評価し、支援を受け入れているように感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

基本的に初参加のメンバーばかりであること、日本と異なる気候や道路事情、食事情などを考慮すると、肉体的・精神的な体力を踏まえた適切なスケジュールだったと思う。それでも決して楽ではなかった。但し、支援状況の視察という目的を考えると、タイにおける支援先である農村部を訪問したかった。来年は是非検討いただきたい。

## 2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

現地の人々に感謝されており意義ある活動だと実感した。一方で、その意義の深さ、効果の大きさと比べた時、一般にまだまだ知られていないのではないかと感じた。NGOという団体の性質上、資金面を含め制約は当然あると思うが、逆にそれゆえにパブリシティを積極的に行ない、関係者だけ、支援に協力している人たちだけの満足にとどまらないよう工夫を重ねることが必要であると感じた。

### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

ラオスについては、小学校の建設は一定程度、達成されたとの見解もあったので、まだ小学校が必要なのか、あるいは中学校に切り替えるべきなのか支援する対象を改めて確認して、活動を継続すべきである。一方、タイでは、各県単位で衣料のリサイクルがなされており、不足分をバンコクにあるCSAの倉庫に求めるとのことであった。また、必要な量について保健省に尋ねたところ、倉庫のスペース制約から現状レベルが適切である、とのことであった。倉庫の担当者も受払について厳密な統計は取っていない、とのことであった。バンコクの繁栄を見るにつけ、また県単位でのリサイクルという同国の基本的なやり方を知って、一度、先方の協力を得て必要な支援量を精査すべきであるように思われた。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

積極的な活動を展開していること、それを長年にわたって継続していることは信頼性の高いNGOとして国際的・社会的に評価されていると思う。ニュースリリースなどを通じて社会へのPRを続けるとともに、活動内容を随時見直し、よりリアルタイムのニーズに応える支援内容とすることが、活性の高いNGOとしての評価・理解につながり、より多くの人々の積極的な参加・協働につながるのではないと思う。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がいいですか。

続ける必要があると思う。規模については、様々な組織から様々なメンバーが参加することを前提に考えると、現状の規模が適切ではないかと思う。初対面のメンバーをまとめられる事務局はご苦労が多いと思いますが、是非継続していただきたいと思う。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

他企連、他産別の方と1週間近く、行動を共にすることができたことは大変貴重で、機会を与えていただいたCSA、産別、企連、単組の皆様には感謝しています。多くのことを得たと思いますが、特に、ある目的をもった集団においては、日常の立場に関係なく、それぞれが自身の個性を発揮して貢献するよう努力することが大切であることを改めて感じました。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがですか

渡邊事務局長の的確な判断に基づく進行、野村さん、二戸さんの名(迷?)コンビによる明るい雰囲気の下、各メンバーが個性的なリーダーシップを発揮され、手前味噌になるが良いチーム運営であったと思う。チームのあり方について、またチームに対する私自身の貢献の仕方について、改めて勉強させていただいたと感じています。

## 大 場 正 晴 (JAM北関東)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

救援衣類をはじめとする各支援活動の活用状況、必要とする現地状況が確認できたこと。

団員の皆さんに恵まれ、ツアーを無事に終了できたこと。

現地の人々の暖かさに触れたこと。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

子供たちの無邪気な笑顔、心の豊かさ。

連合・CSAへ強い感謝の思い、日本に対する厚い友好感情。

#### 3) 現地カウンターパートナーがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

活動内容のみならず、活動を継続していることが非常に感謝されていると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

訪問前は長い日程と思っていましたが、実際に視察すると適正な日程と感じました。

タイの衣類贈呈先の状況がさらに確認できればもっと良かったと思います。

2. 今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

CSAの活動がラオス・タイ両国と日本との友好関係、日本人への友好意識に大きく貢献していると感じました。

2) CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

小学校への支援活動に「教室への図書コーナー設置」などを加えて頂きたい。  
CSAの活動展開にあたって特に必要となる物資があれば、連合各構成産別へ提供を呼び掛けても良いと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

まずは、参加した私たちが自組織において活動を展開しなければならないと思います。

連合には大きな組織力があるので、構成する全産別から本ツアーに参加して頂き、活動拡大につなげて頂きたい。

CSAの活動内容・結果、現地の状況を紹介する映像器材があればさらに良いと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がいいですか。

実際に現地を確認できたことは大変有意義でしたので、ぜひ継続して頂きたい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか

短い期間にもかかわらず全員で協力し合い、団として連帯感が生まれたこと。  
日常活動に関する意見交換をもっと行なえば良かったと反省しています。  
今後の支援活動においても、団員がお互いを意識し相乗効果が得られると思います。

3) チームの運営の仕方はいかがですか

団長、記録、写真の各担当を役割分担したので、スムーズな対応ができたと思います。

各訪問先終了後に全員で記録内容の確認をすればさらに良かったと思います。

訪問先で訪問団による歌唱パフォーマンスがある場合は、歌詞カード準備も含めて事前の打ち合わせが必要と考えます。